

補修技術動向を講演

J C M A 劣化や変状にも焦点



江良氏

に焦点を当てた。

28日の冒頭にあいさつした同協会の江良和徳専務理事（技術委員長）は「長い講習ではあるが、皆さんの興味をひく内容だと思つのでぜひ聴講いただきたい」と述べた。

物の長寿命化における亜硝酸リチウムの役割、近未来コンクリート研究会代表の十河茂幸氏が「コンクリートに生じる変状とその対応」でそれぞれ講演した。

組み事例ではRCC床版の炭素繊維補強や剥落防止対策などを紹介したうえで、大規模修繕の考え方などを説明した。

依田氏は首都高の歴史や交通上の特徴を紹介したうえで、点検補修サイクルについて、発見される損傷が増加傾向にあると説明。構造物の点検および補修を、P D C Aサイクルを策定して確実に実施しているとした。また、点検困難箇所附近接点検はロープアクセスの多用や、恒久足場を設置し、作業空間を常時確保することで点検を容易にしていると紹介した。補修の取り

28日の講習会では、首都高速道路保安・交通部点検・補修推進室点検・補修推進課の依田勝雄氏が「首都高速道路における維持管理の取り組み」、三井住友建設の佐々木亘氏が「電気化学的防食工法的设计・施工・維持管理」、京都大学名誉教授の宮川豊章氏が「コンクリート構造物の適切な維持管理で持続可能な未来を」、江良氏が「コンクリート構造



十河氏

十河氏はコンクリートに生じる様々な変状の種類を説明したうえで、施工時に生じる変状の事例として沈下ひび割れや豆板、コールドジョイント、表面気泡、施工初期に発生するひび割れ（温度ひび割れ、乾燥収縮ひび割れ）などを紹介した。その対策を詳細に説明したうえで、予防保全のため点検は簡易にして補修に費用をかけるべきとし、劣化状態と将来予測の判別について解説した。